

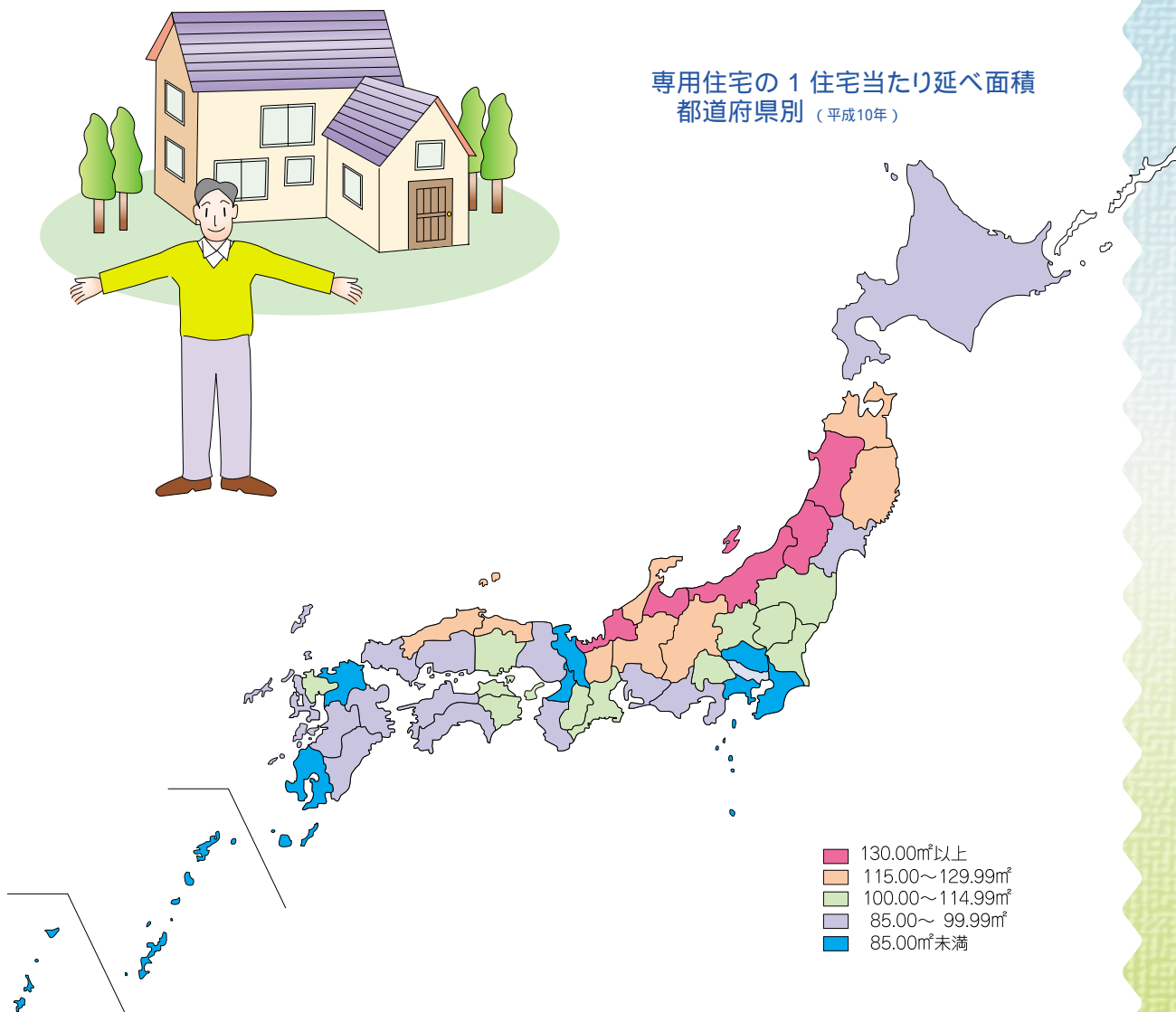
<住宅の広さ>

住宅規模の大きい 日本海側の各県

都道府県別に住宅の広さを1住宅当たりの延べ面積で見ると、富山県が151.70㎡と最も広がっています。次いで、福井県137.08㎡、秋田県135.27㎡、山形県133.59㎡、新潟県131.17㎡の5県が130㎡を超え、全国平均の88㎡を大幅に上回っています。また、1住宅当たり平均100㎡以上となる県数は、平成5年では21県でしたが、平成10年には24県となっています。

一方、大都市を含む東京都、大阪府ではそれぞれ59.43㎡、68.93㎡といずれも全国平均を下回り、住宅規模が大きい日本海側の各県と明らかな対照をみせています。

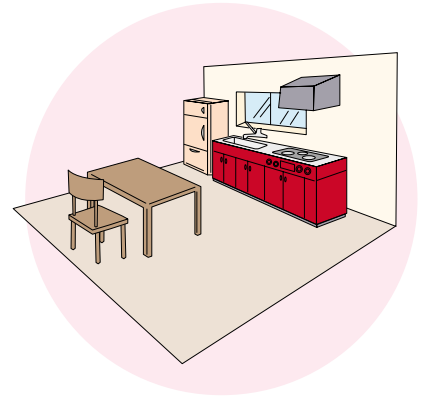
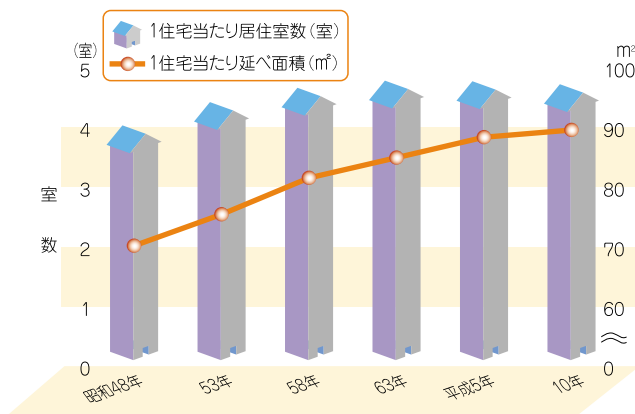
専用住宅の1住宅当たり延べ面積
都道府県別（平成10年）



住宅の広さは拡大傾向

住宅の広さの移り変わりをしてみると、1住宅当たり延べ面積は平成10年まで一貫して拡大していますが、1住宅当たりの室数は昭和63年まで一貫して増加してきたものの、平成5年からは、ほぼ横ばいとなりました。リビングとダイニングやキッチンを広くした間取りの普及などのライフスタイルの多様化などによるものと考えられます。

専用住宅の1住宅当たり居住室数及び延べ面積の推移 全国（昭和38年～平成10年）



建売住宅・分譲マンションの購買は100㎡程度の広さで約5割を占める

平成6年以降に建築された建売住宅、分譲マンションの新築購入では3LDKクラスの70～99㎡の広さが約5割と、約半数を占めています。また、「建て替え」では100㎡以上で約8割を占めています。

取得方法別にみた平成6年以降に建築された持ち家の延べ面積別割合 全国（平成10年）

